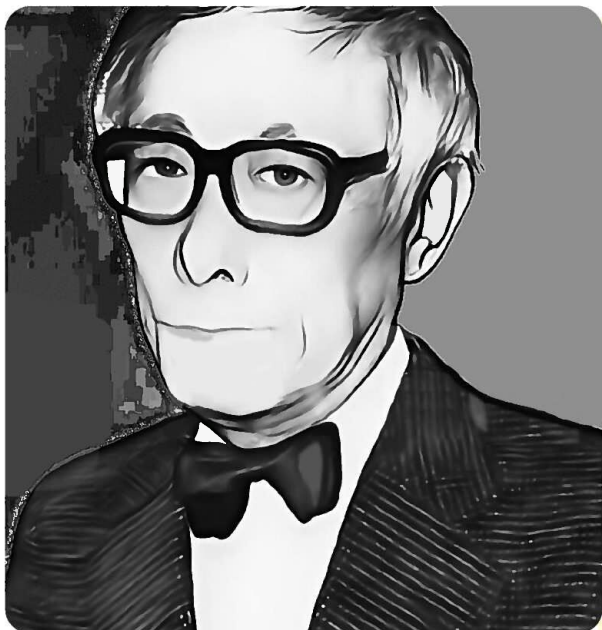




亀山 巖

KAMEYAMA Iwao

代表作

『謝肉祭』詩・装丁（1926 年）
 『海の聖母』吉田一穂・著、
 装丁（1926 年）
 『CINE』『ウルトラ』詩・装丁（1927 年）
 『月と胡蝶』北原白秋・著、
 装丁（1927 年）
 『青い夜道』田中冬二・著、
 装丁（1927 年）
 名古屋豆本（1967～1989 年）

ほか多数

活動略歴

1907 年 中区裏門前町生まれ。父は六次（号は半眠 / 名古屋新聞記者、少年雑誌「兎の耳」主幹）。その後名古屋市立工芸学校図案科に入学。
 1926 年 上京し詩誌「指紋」が 1 号で終刊後春山行夫・齋藤光次郎・近藤東・吉田一穂らとともに詩誌「謝肉祭」を発行。
 1927 年 帰名し名古屋新聞に就職。北原白秋の『月と胡蝶』、田中冬二の『青い夜道』の装丁や、詩誌「CINE」、「ウルトラ」に参加。
 1947 年 「新日本詩人懇話会」を設立。
 1952 年 中日新聞の取締役・編集局長に就任。
 1956 年 中日新聞相談役となり、東京で生活。
 1963 年 名古屋に呼び戻され名古屋タイムズ社長。
 1967 年 「名古屋豆本」を開板。140 冊あまりを数えるすべての豆本の企画・装幀、装画、さらにあて名書き、発送作業まで手掛けた。
 1983 年 名古屋タイムズ社長を退職。私財を投じ名古屋市文化振興事業団を創設、初代理事長に就任した。
 1989 年 病により没。

参考／『亀山巖のまなざし』木下信三・著
 （2023 風媒社 刊）

KAMEYAMA Iwao (1907 – 1989/ Genre ; Poets, Book designer, Illustrator)
 Born in Nagoya City. He attended Nagoya City schools and studied design. He was involved in the launch of numerous literary magazines, writing poetry, essays, and novels, while also demonstrating his talent for cover art and illustrations. He designed covers and book designs for renowned poets and novelists. While serving as a director and editor-in-chief of a prominent newspaper company in the Chubu region, he published “Nagoya Mamehon” (Mamehon refers to books small enough to fit in the palm of one’s hand) as a membership-based publication. He actively worked to establish the Nagoya City Cultural Promotion Foundation, contributed funds, and became its first chairman

ジャンル / 詩

poets

名古屋市収蔵の資料

／亀山 巖

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to Kameyama Iwao in Nagoya City.
Storage location: Cultural Path Futaba Museum,
City of Nagoya.

←明治・大正時代あたりの名古屋の回顧シリーズ「むかし名古屋」色紙絵。これらはおそらく『あじくりげ』の連載挿絵に使われたと推測される。



↑『名古屋豆本』は全部で140冊を超えるシリーズ。執筆者は、亀山氏が声をかけた中部地方の作家や研究者。装幀・挿絵、配布袋まで全て亀山氏による。音声資料（カセット）や地図などの付録があるもの、カレンダーが付いている時もあった。



↑同人誌『ウルトラ』。昭和4年（1929）創刊。帰名後名古屋新聞で働きながら詩集の装丁の依頼を多く引き受けた。佐藤一英『古典詩集』、北原白秋『月と胡蝶』、田中冬二『青い夜道』など。その頃「ウルトラ」に参加した。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。